

# EVENT REPORT

全国の若者が自分の地域の30年後を描き、競い合う。

# 未来自治体

## 全国大会 2015

日本一、住みたいまちを決めるコンテスト



もし、あなたが地域のリーダー(首長)だったら、  
30年後、あなたのまちをどんなまちにしたいですか？  
それを実現するための10年後の地域の予算案を策定してください。

## 「日本一、住みたいまちを決めるコンテスト」

- ・ 期間：2015年1月31日～2015年3月20日
- ・ 参加者：92名・26チーム
- ・ 決勝コンテスト観覧者：237名
- ・ 後援：総務省、法務省、厚生労働省、消費者庁他

## ▽ 参加学生の地域・インターン先事務所一覧

### 北海道ブロック

北海道東神楽町・山本進 東神楽町長  
北海道蘭越町・宮谷内留雄 蘭越町長  
北海道下川町・下川町議会議員 谷一之事務所  
北海道鶴居村・大石正行 鶴居村長  
北海道弟子屈町・徳永哲雄 弟子屈町長

### 東北ブロック

宮城県柴田町・宮城県議会議員 高橋伸二事務所  
宮城県仙台市・参議院議員 和田政宗事務所  
山形県山形市・山形市議会議員 浅野弥史事務所  
山形県米沢市・米沢市議会議員 相田克平事務所  
福島県福島市・福島市議会議員 大内雄太事務所  
福島県郡山市・郡山市議会議員 滝田春菜事務所

### 関東ブロック

千葉県流山市・流山市議会議員 松野豊事務所  
東京都昭島市・昭島市議会議員 内山真吾事務所  
東京都品川区・品川区議会議員 石田慎吾事務所  
神奈川県座間市・座間市議会議員 佐藤みと事務所

### 東海ブロック

愛知県みよし市・みよし市議会議員 水谷正邦事務所  
三重県松阪市・松阪高校  
三重県松阪市・松阪中学校

### 関西ブロック

大阪府吹田市・大阪府議会議員 杉江友介事務所  
大阪府吹田市・吹田市議会議員 足立将一事務所  
兵庫県川西市・兵庫県議会議員 越田謙治郎事務所

### 九州ブロック

広島県広島市・広島県議会議員 福知基弘事務所  
福岡県筑紫野市・筑紫野市議会議員 赤司泰一事務所  
福岡県北九州市・北九州市議会議員 大久保無我事務所  
長崎県長崎市・長崎県議会議員 平野剛事務所  
鹿児島県鹿児島市・鹿児島市議会議員 野口英一郎事務所

※参加学生はそれぞれ上記の地域の30年後の理想像を考えてきました。

# CONTEST

## 決勝コンテスト結果

3/20

決 勝

地域予選、WEB予選を経て、東北から2チーム、関東、九州から1チームずつの計4チームが決勝コンテストに進出致しました。当日は4チームによるプランの発表、質疑応答を行い、その後30歳以下の観覧者の投票により最優秀プランを決定致しました。優勝チームには優勝特典として、豪華ゲストとのパネルディスカッションにご参加いただき、ゲストに自分たちの意見を堂々と主張する場面もございました。

### ゲスト

宮川典子氏(自由民主党 女性局長代理・衆議院議員) 蓮舫氏(民主党 代表代行・参議院議員)

山本太郎氏(「生活の党と山本太郎となかまたち」共同代表・政策審議会長) 北川正恭氏(早稲田大学政治経済学術院 教授)

与良正男氏(毎日新聞社専門編集委員)

### 総合結果

優勝：ていーむ すてーぶ・じょぶず(赤司泰一議員事務所/福岡県筑紫野市)：72票

第二位：チームKAPPEI(相田克平議員事務所/山形県米沢市)：70票

第三位：松野豊事務所つくばチーム(松野豊議員事務所/千葉県流山市)：53票

第四位：チーム柴田(高橋伸二議員事務所/宮城県柴田郡)：16票



全国から予選を勝ち抜いた4チーム



会場には約250名の観覧者



チーム発表①



チーム発表②



会場の観覧者からの質問



30歳以下の投票で優勝チームを決定



ゲストからのご講評①



ゲストからのご講評②



優勝チーム発表の瞬間



表彰状授与



優勝チームとゲストによるパネルディスカッション



# CONTEST 決勝までの歩み

## ▽ コンテストのルール・流れ



「未来自治体全国大会2015」では、未来事業の5年間の歴史で初めて、コンテスト参加者にドットジェイピーが創業以来18年間運営をしてきた「議員インターンシップ」プログラムとの同時参加をしていただきました。参加者には頭の中だけで地域の未来を考えるのではなく、地域の最前線で問題解決に取り組む「首長」「議員」の元でのインターンシップを通して得た一次情報をもとに政策立案に取り組んでいただきました。

1/31

### キ ャ ッ プ



日本マイクロソフト株式会社のご協力により、日本マイクロソフト品川本社でキックオフイベントを行いました。イベントは全国にインターネットを通じて中継し、コンテストの概要の説明の後、参加学生が30年後の自分の未来と地域の未来を考えるワークを行いました。また、弊団体理事長佐藤大吾や未来自治体講師・ビズデザイン株式会社の友田景氏が参加学生にむけて講演を行い、エールを送りました。

2/28

### 中 間 報 告 会



中間報告会では、関東ブロック参加の5チームが中間発表を行いました。発表の後には、参加チーム同士でフィードバックを行いプランを磨きました。また、未来自治体講師・船井総合研究所の朽尾圭亮氏をお迎えし、参加学生の中間発表への講評とご講演をいただきました。



# CONTEST 決勝までの歩み

3/7

地 域 予 選



全国6ブロック(札幌、山形、東京、名古屋、兵庫、福岡)にて、地域予選を行いました。地域予選では参加チーム同士での相互投票により、WEB予選に進出する10チームを選出致しました。

3/9-13

W E B 予 選

3月9日から13日の5日間、公式サイト上にて、地域予選を突破した10チームより4チームの決勝進出チームを決めるWEB予選を行いました。

3/20

決 勝

WEB予選で得票数の多かった上位4チームが3月20日の決勝コンテストに出場し、30歳以下の観覧者の投票により最優秀プランを決定致しました。

各ブロックのWEB予選進出枠

北海道ブロック

5→2

関西ブロック

3→1

東北ブロック

5→2

関東ブロック

5→2

東海ブロック

3→1

九州ブロック

5→2

26  
チ ー ム

10  
チ ー ム

4  
チ ー ム



**宮川典子(みやがわのりこ)氏 自由民主党 女性局長代理・衆議院議員**

昭和54年4月5日 山梨県に生まれる。昭和61年 山梨学院大学附属幼稚園(卒業)。平成4年 山梨市立日下部小学校(卒業)。平成7年 山梨英和中学校(卒業)。平成10年 山梨学院大学附属高等学校(卒業)。平成14年 慶應義塾大学文学部人間関係学科教育学専攻(卒業)。平成14年~平成19年 母校である山梨学院附属中学・高等学校の全学年で教鞭を執る。平成19年 松下政経塾入塾(第28期生)。平成21年 自由民主党山梨県参議院選挙区第二支部長。平成22年 7月 第22回参議院議員通常選挙に出馬するも3,745票差で落選。平成23年 12月 自由民主党山梨県第一選挙区支部長。女性としては全国最年少女性支部長として任命される。平成24年 12月 第46回衆議院議員総選挙 初当選。県下で唯一小選挙区を制し県内初の女性衆議院議員となる。

**蓮舫(れんほう)氏 民主党 代表代行・参議院議員**

1967年東京都生まれ。1990年青山学院大学法学部卒業後、司会やレポーター、報道キャスターとして活躍。1995年~1997年、北京大学に語学留学。

2004年参議院議員選挙(東京都選挙区)で初当選。行財政改革、年金問題、少子化対策、子育て支援などに取り組む。民主党政権では行政刷新担当大臣、公務員制度改革担当大臣などを歴任。2015年より、民主党代表代行。

**山本太郎(やまもとたろう)氏 生活の党と山本太郎となかまたち 共同代表・政策審議会長**

1990年高校1年生時に『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』の「ダンス甲子園」に出場し芸能界入り。1991年、映画『代打教師 秋葉、真剣です!』で俳優デビュー。ドラマ『ふたりっ子』(1996年)、『新選組!』(2004年)。映画『バトルロワイアル』(2000年)、『GO』(2001年)などに出演。『世界ウルルン滞在記』などで、肉体を使った体当たりレポートも。

『光の雨』、『GO』で2001年度日本映画批評家大賞助演男優賞、『MOONCHILD』、『ゲロッパ』、『精霊流し』で2003年度ブルーリボン賞助演男優賞受賞。舞台『美輪明宏版椿姫』、主演映画『EDEN』公開など(2012年)。

**北川正恭(きたがわまさやす)氏 早稲田大学政治経済学術院 教授**

1944年生まれ。1967年早稲田大学第一商学部卒業。1972年三重県議会議員当選（3期連続）、1983年衆議院議員当選（4期連続）。1995年、三重県知事当選（2期連続）。「生活者起点」を掲げ、ゼロベースで事業を評価し、改革を進める「事業評価システム」や情報公開を積極的に進め、地方分権の旗手として活動。達成目標、手段、財源を住民に約束する「マニフェスト」を提言。2期務め、2003年4月に退任。現在、早稲田大学大学院公共経営研究科教授（現在：早稲田大学政治経済学術院大学院政治学研究科公共経営専攻（公共経営大学院））教授、「新しい日本をつくる国民会議」（21世紀臨調）代表。平成21年地域主権戦略会議構成員。

**与良正男(よらまさお)氏 毎日新聞社専門編集委員**

1957年、静岡県生まれ。1981年、毎日新聞社入社。中部本社報道部から89年東京本社政治部。官邸、自民党、野党、外務省各担当キャップや政治部デスクを経て、04年から論説委員。現在、毎日新聞の社説や夕刊のコラム(熱血！与良政談)などを担当。早稲田大学大学院公共経営研究科客員教授、文部科学省熟議懇談会委員、21世紀臨調運営委員などを歴任。TBSテレビ「みのもんたの朝ズバッ！」、「サンデーモーニング」、TBSラジオ「ゆうゆうワイド」などでコメンテーターを務める。著書に「与良政談」（毎日新聞社）など

**■パネルディスカッション・ファシリテーター****友田景(ともだけい)氏 NPO法人ドットジェイピー顧問・ビズデザイン株式会社 取締役**

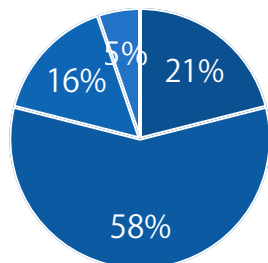
大学卒業後、テニスインストラクターを経て、大阪府柏原市議会議員選挙において、最年少・最高得票にて当選。4年後には、2期連続最高得票にて再選。

6年間の在職中には、小中一貫校の教育特区や大学との連携事業をはじめとするシティセールスを数多く手がける。その後、中堅中小企業の支援を行う経営コンサルティング会社に転職し、オーナーの悩みを解決すべく、現場に入り込みハンズオンで行う泥臭い地道な改善活動の支援を行う。現在は、政官民を問わず、クライアントのあらゆる悩みに応えるコンサルティング&実行支援業務を実践中。専門は、ソーシャルビジネス、CSR経営、ISO26000、NPO支援、地域活性化。

# VOICE

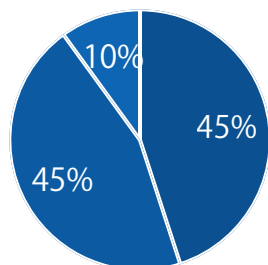
## 参加者の声

■このプログラムの満足度について教えてください。



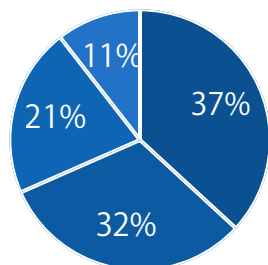
- 1.大変満足 21%
- 2.満足 58%
- 3.普通 16%
- 4.やや不満 5%
- 5.大変不満 0%

■当プログラムを経て、自分がプログラムに参加した地域への関心が深まったか教えてください。



- 1.大変深まった 45%
- 2.深まった 45%
- 3.どちらとも言えない 10%
- 4.あまり深まらなかった 0%
- 5.全く深まらなかった 0%

■当プログラムを経て、自分がプログラムに参加した地域が好きになったか 教えてください。



- 1.すごく好きになった 37%
- 2.好きになった 32%
- 3.変わらない 21%
- 4.嫌いになった 11%
- 5.すごく嫌いになった 0%

■今後の抱負やプログラムの感想などご自由にお書き下さい。

- ・やって良かった以外の何物でもない。自分で考えるのはすごい面白いし、今までこんな機会が用意されない日本の教育って何なんだって、ゲストの話を聞きながら思った。
- ・正直最初は乗り気ではありませんでした。でもこのプログラムを通して、知らなかった世界を目にし、多くの人と出会い、たくさんのことを学ぶことができました。今後の私の糧になっていくと思います。本当にありがとうございました。
- ・未来を創るのは自分たちだと危機感が高まった。
- ・名前も知らない流山市だったが、愛着を持てた。

※アンケート(3月20日の決勝コンテスト時に参加学生に対して実施)



- ・釧路新聞(2月21日)「北星大生3人 町政学ぶ 弟子屈」
- ・BSジャパン「テレビ 日経おとなのOFF」(2月27日)「夢を共有する寄付」
- ・山形経済新聞(3月5日) 学生が考える「日本一住みたい街」ー山形で「未来自治体2015東北大会」
- ・北海道新聞(3月6日)「人口減少問題などをテーマに政策提言」
- ・朝日新聞(3月7日千葉版)「大学生、市長になったらこんな街に」 予算考え政策競う 全国大会へきょう予選
- ・西日本新聞 (3月7日) 大学生が「地方創生」の政策発信 福岡市で未来自治体全国大会予選
- ・北海道新聞(3月8日朝刊)「30年後 理想の地域像は 未来自治体全国大会、札幌で道予選」
- ・毎日新聞 (3月8日地方版)「未来自治体:九州大会 30年後、あなたが市長なら 大学生が政策を発表 5チーム参加 /福岡」
- ・楽天infoseek(3月9日)「もし自分が市長なら？」若者による政策コンテスト「未来自治体全国大会2015」
- ・政治山(3月9日)「全国の若者が、30年後の住みたいまちを提案する「未来自治体全国大会2015」の取り組み」
- ・米沢新聞(3月16日)「市営一軒家政策も 学生が市長にプレゼン」
- ・毎日新聞(3月17日山形版) 「未来自治体全国大会2015：米沢チーム決勝へ/山形」
- ・産経ニュース(3月18日) 全国の学生が考える「30年後、日本一住みたいまち。」
- 3月20日(金)・まちづくりコンテスト「未来自治体全国大会2015」決勝コンテスト開催
- ・JB PRESS(3月18日) 宮川典子氏、蓮舫氏、山本太郎氏を前に学生がプレゼン！
- ・YOMIURI ONLINE(3月18日) 全国の学生が考える「30年後、日本一住みたいまち。」
- ・東京新聞(3月29日朝刊)「統一地方選 若者 なぜ投票しないの？」



北海道新聞(3月8日朝刊)「30年後 理想の地域像は 未来自体全国大会、札幌で道予選」



朝日新聞(3月7日千葉版)「大学生、市長になったらこんな街に」予算考え政策競う 全国大会へきょう予選



毎日新聞(3月17日山形版) 「未来自体全国大会2015：米沢チーム、決勝へ/山形」

# SUPPORTERS

ご後援団体・ご協賛/ご協力企業

## ■ 後援



総務省



法務省



厚生労働省



消費者庁



公益社団法人 東京青年会議所



公益財団法人 明るい選挙推進協会



公益財団法人 松下政経塾



Ameba 政治家ブログ



Yahoo!みんなの政治



楽天政治LOVE JAPAN

## ■ 協賛・協力



日本マイクロソフト株式会社



グロービス経営大学院



株式会社パフ



KLab株式会社



株式会社オーシャナイズ



株式会社文化放送キャリアパートナーズ

## ■ クラウドファンディング



決勝参加4チームの東京までの交通費を集めるため、WEB上での寄付集めサイト「JAPAN GIVING」を通じて、クラウドファンディングに挑戦を致しました。119人の方にご協力をいただきまして、目標金額を超える30万9000円が集まりました。応援いただいた皆様に感謝申し上げます。

# HISTORY

## 「未来自治体」「未来国会」の歩み



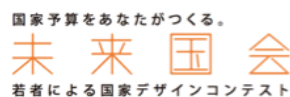
「批判よりも提案を」というスタンスのもと「未来国会」は『もし自分が総理大臣だったら国家予算をどのように作るか』『未来自治体』は『もし自分が首長だったら自治体予算をどのように作るか』というテーマで、次代を担う若者（主に大学生）が未来の国家や街のビジョンを掲げ、それを政策・予算にまで落とし込み、「若者らしい斬新かつ、現実性を備えた夢」をコンテスト形式で競い合う提案型プログラムです。

### 未来自治体 - 地域の未来をあなたがつくる。 -



「もしあなたが首長だったら」というテーマのもと、30年後の地域ビジョン、それを実現するための10年後の自治体予算を提案する地域デザインコンテスト。2012年より、流山市、奈良市、仙台市、鎌倉市、松阪市、習志野市、笠間市、稲城市、上越市、成田市、茅ヶ崎市、浦安市・富山県の13自治体でのべ17回開催。また、「未来自治体」の1日での体験プログラムとして、「もし自分が首長だったら」という視点で「空港建設」などの難しい政治判断を下したり、数ある政策から自分なりの重点政策を考え、他の出場チームに向かい演説をする「自治体リーダシミュレーション」というワークショップも実施している。

### 未来国会 - 国家予算をあなたがつくる。 -



2010年より計5回開催。夏休みの2ヶ月間をかけ、「もしあなたが総理大臣だったら」というテーマのもと、30年後の国家ビジョン、それを実現するための10年後の予算案を提案する国家デザインコンテスト。昨年8・9月開催の「未来国会2014」には過去最大、国内の政策コンテストで最大となる114名・26チームが参加。2015年8月・9月には「未来国会2015」を開催予定。

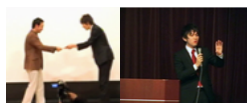


# HISTORY

## 「未来自治体」「未来国会」の歩み

2010

2010.12  
未来国会2010



未来事業の誕生は2010年。初の未来国会は2泊3日の合宿形式で若者の考える未来の理想の日本を競い合うコンテストとして開催され、初めての民主党政権下での予算編成が注目される中で、未来国会の優勝プランは全国紙に若者が考える日本の未来の代表案として、閣議決定された予算案と比べられる形で大きく掲載されました。

2011

2011.8-9  
未来国会2011



東日本大震災が起きた2011年の第2回開催では、プログラムを合宿形式から2ヶ月間に形式を変え、決勝コンテスト当日には「未来国会」がTwitterでトレンドワードになるなど、社会からも第1回に引き続き大きな注目を浴びました。

2012

2012.4  
未来流山市 (トライアル)  
2012.8-11  
未来奈良市2012  
2012.8-9  
未来国会2012  
2012.10-12  
未来仙台市2012  
2012.11-12  
未来鎌倉市2012



2012年には、「未来国会」の自治体バージョンとして、「未来自治体」が流山市でのトライアルを皮切りに奈良市、仙台市、鎌倉市で始めました。「未来奈良市2012」「未来鎌倉市2012」それぞれ11チームが参加し、鎌倉市では地元企業とのコラボレーションなどが実現していきました。

2013

2013.3  
習志野市LS  
2013.6-7  
未来仙台市2013  
2013.8-9  
未来国会2013  
2013.9  
稲城市LS  
2013.9  
鎌倉市LS  
2013.10-12  
未来松阪市2013  
2013.12  
上越市LS



前年に引き続き、仙台市、松阪市で未来自治体を開催。松阪市では決勝コンテストで提案された「MADE IN まつさ課」構想を市長がその場でネーミングの採用を約束するなど、未来自治体での提案の実際の政策への反映も見られるようになりました。また、「未来自治体」の簡易版(1日で実施)として、実際に過去の自治体で行われた政治判断を実例に、参加者が首長の決断をバーチャルで体験できる、未来自治体の簡易版となる「自治体リーダーシミュレーション」をリリース。

2014

2014.3  
成田市LS  
2014.7-8  
未来茅ヶ崎市2014  
2014.8  
浦安市LS  
2014.8-9  
未来国会2014  
2014.8-10  
未来松阪市2014  
2015.3  
富山県LS



「未来自治体」が始まり3年目となった2014年には前年に引き続いて松阪市、また新たに茅ヶ崎市、成田市、浦安市で「未来自治体」や「自治体リーダーシミュレーション」が開催されました。また、「未来国会2014」は114名・26チームの参加により過去最大、日本最大の政策コンテストとなりました。

※LS：自治体リーダーシミュレーション

P L A N   S H E E T

# 参 加 者 プ ラ ン シ ー ト

未 来 自 治 体

全 国 大 会 2 0 1 5

■ 30 年後の筑紫野市

0→1 を創る教育都市 筑紫野

福岡市の南にあるベッドタウン筑紫野市。そんな筑紫野を教育都市にして、0→1 を創ったスティーブ・ジョブズのような独創的な人材を輩出する。そして教育都市筑紫野の名を全国に広め、若者を筑紫野に呼びこみ、筑紫野を住みよい街とするのだ！

■ 背景

①筑紫野の現在

- ・福岡市のベッドタウン(電車で 30 分というアクセスの良さ)
  - ・生産年齢人口が高い(全体に占める生産年齢人口の割合が 69% 全国平均は 62%)
  - ・0→1 を産む農業都市(市内に福岡県農業大学校、福岡県総合農業試験場がある)
- ※福岡県総合農業試験場は福岡県特産いちご「あまおう」やラーメン用麦「ラー麦」を開発するなど、0→1 を産み出してきた実績がある。

②筑紫野の 30 年後「市の税収が崩壊、市のサービスが不安定に」

生産年齢人口が高いがゆえに急速な高齢化が起きる。生産年齢人口は 69%→54%に、 老年人口は 18%→33%になる。税を納める若者が居なくなるのだ。

■ 内容「筑紫野を教育都市に！」

①効果「若者確保」

子育て世代である 20 代対象の「どこで子育てしたいか？」というアンケート(2012 年横須賀市による)結果によると「教育環境の良いところ」が 79%、「親の近く」が 68% つまり筑紫野を教育都市にすれば、子育て世代の転勤族が転入する。筑紫野で育った人も筑紫野で子育てをする。このようにして若者を呼び込み、税収を安定して確保できるのだ。

②教育都市筑紫野が輩出する人材「0→1 を創るスティーブ・ジョブズ」

筑紫野ならではの独創的な教育を展開し、スティーブ・ジョブズのような 0→1 を創る独創的な人材を輩出する。彼らが筑紫野を飛び出し日本全国・世界各国で活躍することで教育都市筑紫野の名が全国に広まる。

③小中高一貫校建設

30 年後に筑紫野全域で独創的な教育を展開することを見据え、まず 10 年後に自由なカリキュラムを持つ小中高一貫校を、筑紫野市中心部にモデル校として1つ創る。  
小中高一貫校の校舎は二日市中学校のものを使用・増設する。二日市中の校区となっていた地区は、隣の天拝中と筑紫野中の校区に統合する。

【校舎建設費用】

| 費用名      | 算出方法                                                                   | 金額          |
|----------|------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 校舎建設費    | (校舎面積) × (全国平均建設単価24万円)                                                | 570,240,000 |
| 土地代      | (校舎面積) × (地価64,100円)                                                   | 152,301,600 |
| グラウンド費   | (グラウンド面積) × (地価64,100円)                                                | 592,284,000 |
| 設備費      | 電気設備費 75,000,000<br>給排水設備費 30,000,000<br>空調設備費 50,000,000 【市学校教育課の方より】 | 155,000,000 |
| 学校運営費    | 消耗品や備品の費用、修繕費、光熱水費など<br>市内小学校の平均47,884,418円より増設学校分を計算<br>【市学校教育課の方より】  | 38,205,652  |
| 高校教員の人件費 | 文部科学省(学級編制及び教職員定数に関する資料)より                                             | 191,400,000 |

総額 1,699,431,252(約 17 億)円

## □重点政策(小中高一貫校で行う、特色ある3つの授業を紹介する)

### ■授業①

#### 0☆1土曜課外

##### 【内容】

様々な科目から興味のある内容を1つ選び、毎週土曜日に受ける課外授業。一年ごとに科目を変えることで様々なことに挑戦させることができる。

●対象:小中高生

●指導者:学校の先生、地域のボランティア、外部講師

##### 【目的・効果】

0→1を産み出す独創性も、結局は**豊富な経験**の積み重ねから産まれる。そこで独創性を産み出す基盤となる豊富な経験を学生に積ませる。

##### 政策にかかる予算

| 費用名     | 内訳詳細                                                                                              | 金額          |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 外部講師招聘費 | 1人当たり 104,500円<br>詳細) 講師料 94,500円<br>交通費 10,000円<br>【株和田創建の講師価格表より】<br><br>104,500円 × 10人 × 32回/年 | 33,440,000円 |
| 運営費     | 華道、茶道、料理などの道具費<br>その他教材費                                                                          | 5,000,000円  |

総額 3,800 万円

### ■授業②

#### 学生課

##### 【内容】

学生がグループワークを通して政策を創る授業。市長にプレゼンして実現可能と認められた場合、政策が実現する。

●対象:高 1・2

##### 【目的・効果】

学生課がもたらす 0→1 は2つある。

① 何もない状態から新しい政策が産まれるという 0→1

② 若者の政治的無関心が叫ばれる昨今。政治的無関心(ゼロ)→学生が政治を身近なものと感じ興味を抱く(イチ)という 0→1

##### 政策にかかる予算

0 円。校内の授業と市役所でのプレゼンだけだから。

### ■授業③

#### DASH 村

##### 【内容】

学生が農業体験する授業。学校の文化祭で作った農作物を販売する。TPP 参加で、外国に打ち勝つだけの独創力が日本の農業に必要な今、0→1を創る農業教育を筑紫野が全国に提案する。

●対象:小中高生

●指導者:地元農家、福岡県農業大学校の学生、農業試験場職員

##### 【目的・効果】



- ① 「0→収益を創る力を身につける」  
土(ゼロ)から農作物を作り、収益まで産み出す過程を経験させる。
- ② 「農業人材育成」  
諸外国に打ち勝つには、まず農業人材が必要。地元農家・農大生との交流から農業への興味を学生に持たせる。
- ③ 「0→1を創る独創性を身につける」  
福岡名産品「あまおう」やラーメン用小麦「ラー麦」開発など 0→1 を創ってきた農業試験場の独創性を、学生に肌身で感じさせる。この授業を通して小中高一貫校の学生が農業の未来を変える技術革新を起こすかもしれない。

政策にかかる予算

0 円。地元農家、農業大学校の学生はボランティアであるため。

■番外編(ボランティアを動員するために)

## 筑紫野マイスター

【内容】

長年ボランティアとして0☆1土曜課外、学生課、DASH 村に携わった市民・団体に「筑紫野マイスター」という称号を市が与える。

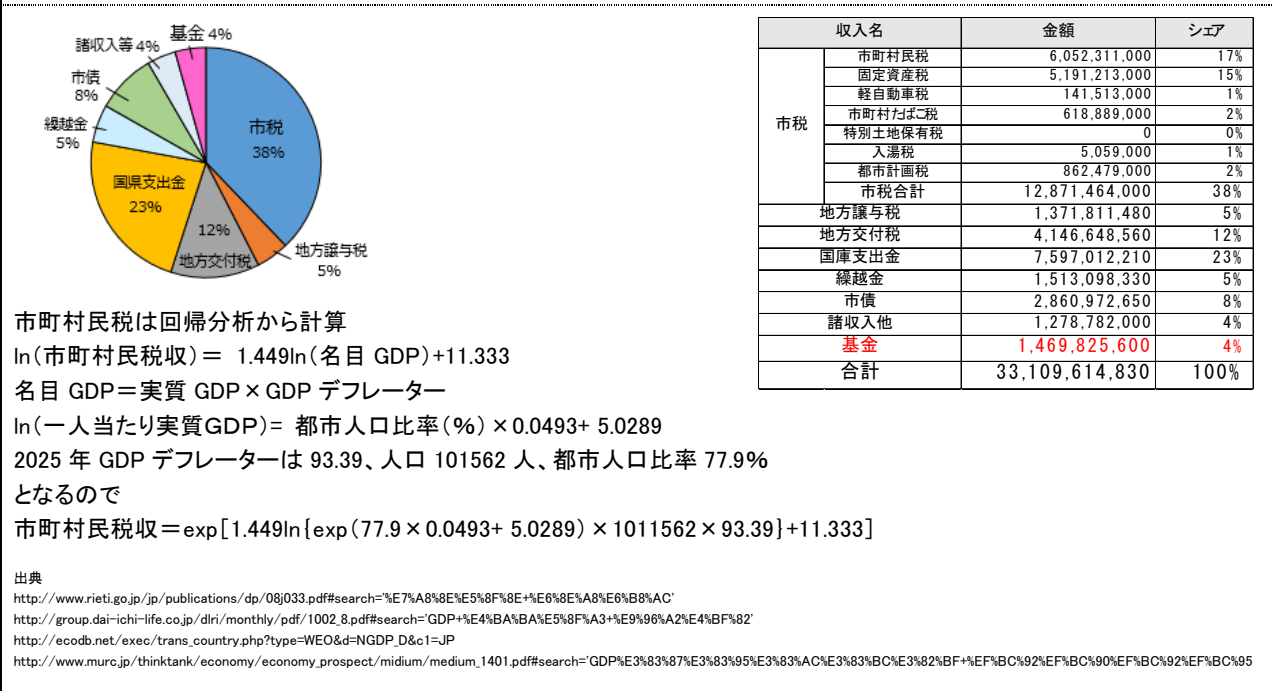
【目的・効果】

市の政策に協力した市民に心から感謝し、市民に「筑紫野活性化に貢献した」と実感させる。そしてさらに市に協力するモチベーションを引き出す。

□予算案（10年後の筑紫野市の予算）

歳入総額 ￥33,109,614,830

具体的な内訳



財源の確保方法

筑紫野市創生振興基金条例に基づき、筑紫野市の基金を小中高一貫校校舎建築費、教育費にあてる。

歳出総額 ￥33,066,704,334

具体的な内訳



重点政策にかかる予算

| 政策名     | 金額            |
|---------|---------------|
| 小中高一貫校  | 1,699,431,252 |
| O☆1土曜課外 | 38,440,000    |
| 学生課     | 0             |
| DASH 村  | 0             |
| 総計      | 1,737871,252  |

## ■ビジョン(30年後の理想の地域)のキャッチコピー

# 夢を創業で叶えられるまち米沢

## ■ビジョン策定の背景・理由

人口減少、少子高齢化が進むなか、私達は現状のまま生活しては、次世代につけを回してしまうのではないかと。このままでは、将来、まちを維持するために何倍もの重税に苦しまなければならない。果たしてそんなまちで良いのか？そのような危機感から私たちは政策を考えた。

皆さんは、上杉鷹山という人物をご存知でしょうか？

「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の 為さぬなりけり」という言葉は、誰しも聞いたことがあるだろう。鷹山はかつて多額の借金を抱えた米沢藩の財政を再建し、ものづくりの町として現代の米沢の基礎を築いた張本人である。その手腕は、現在に至るまで世界中の経営者に注目されている。30年後の米沢の危機的な財政難に立ち向かうため、再び鷹山の教えをもとに行動を起こすことが求められると考えた。

では、なぜそのような考えが、「夢を創業で叶えられるまち米沢」に繋がるのか。

鷹山の教えでは「自助・共助」というものが非常に大切になっている。自分で出来ることは自分で行い(自助)、自分だけでは出来ないことは、他人に助けをもらいながらこなす(共助)ということである。しかし、現在の政治は、「公助」に任せきりになってしまい、自治体住民が自分たちで力を合わせる事が極端に少なくなっている。

そこで、自助・共助・公助のバランスを整え、住民が力を合わせるための手段として、「夢の応援」というものを提案する。“ひとりの夢”を“みんなの夢”にすることによって、住民同士が支えあい、助け合いながら生活し、やがて公助で必要な部分を減らし、自主財源でまちを維持できる自治体になることを目指す。

確かに、現在、隣に住む人の顔も知らなかったりするという事が珍しくない。しかし、私達が住む米沢市では、鷹山の教えが市民に受け継がれ、みんなで支えあう、ということの基盤がすでに出来ている。

30年後の未来を考えるにあたって、住民が安心し、夢を持って暮らせるまちにしたいと、私たちは考える。米沢にある教えをこれからも受け継ぎ、発展させることによって、実現は可能である。住民同士が助け合い、自分達でまちを創っていく、そんな未来を描いている。

## □重点政策

### ■政策①

#### 夢工房・未来づくり基金設立

ものづくりによる創業の場合、最も大きなイニシャルコストは工作機器の導入である。研究を事業化しようとしたときに、そのイニシャルコストを気にせず共同利用できる夢工房を整備。登録制にし、創業希望者同士の交流を図る。

また、夢工房管理のために、毎年一世帯 1000 円を未来づくり基金として募る。約 3000 万円集まる計算であり、市がそれと同額を出すことによって、公助とのバランスを図る(計年間 6000 万円)。

#### 政策にかかる予算

初年度工房開設費 1 億 5000 万円(機器代:1 億円、工場リフォーム代:5000 万円)

次年度より経営費 6000 万円(3000 万:市民から徴収、3000 万は市から支出)

### ■政策②

#### 創業資金

米沢市で創業したいと考え、資金を集めたい人向けに、住民からの出資を募る事業計画プレゼン大会を開催する。市報等でも情報を発信する。またクラウドファンディングを活用し、米沢を応援したいと考えた人からの出資も募る。

これにより、夢を応援したいと考える市民と創業を志す人を繋ぐ。

#### 政策にかかる予算

なし

### ■政策③

#### コミュニティ支援

##### (1) 空き家を改装し、畑付き市営住宅へ

米沢に移住してくる創業希望者に、空き家を改装した畑付き住宅を準備する。家賃 3 万で地域活動に積極的に参加し 10 年間住めばもらえる。年におよそ 3 軒改装。

##### (2) じっちゃばっちゃ BANK

近所のおじいちゃんおばあちゃんが登録制で子育てを手伝ってくれる。それをきっかけに地域住民との交流の輪、野菜の交換等が広がり、世代間の知恵が継承されていくことを目的としている。

##### (3) 鷹山マスター、ドクターの輩出

鷹山公の精神を受け継ぎ、実践を通して地域に貢献した人に贈られる。年間マスター3 名、ドクター1 名が、市民が市民を推薦し、市長によって選ばれる。マスターは住民税 2 割、ドクターは住民税半分が免除される。

#### 政策にかかる予算

空き家の改装 年1500万(500 万円×3 軒)

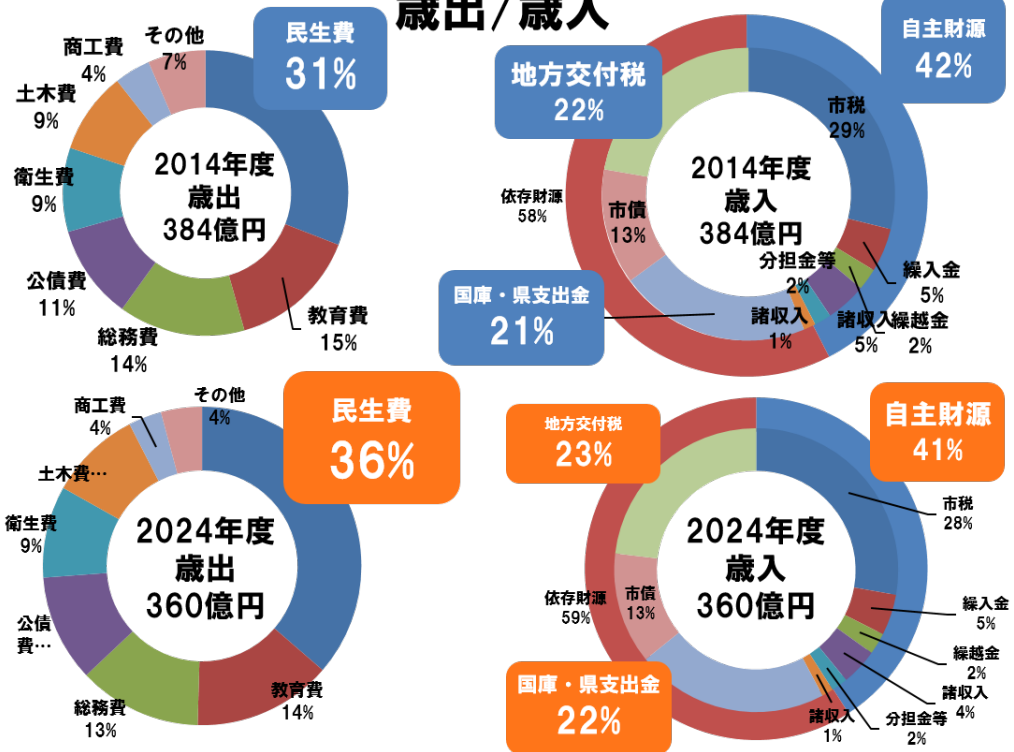
□予算案（10年後の米沢市の予算）

|                                                                                                |                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| <b>歳入総額 360億円</b>                                                                              |                                              |
| 具体的な内訳                                                                                         |                                              |
| 自主財源                                                                                           | 市税 101億 繰入金 17億 繰越金 9億 諸収入 15億               |
| 依存財源                                                                                           | 分担金等 7億 諸収入等 国庫・県支出金 78億 市債 45億<br>地方交付税 83億 |
| 財源の確保方法                                                                                        |                                              |
| 初年度は市債として発行する。次年度以降は少子高齢化より、介護福祉費など、民生費が増え続けると予想されているが、私たちはこれらの金額を、政策を進めることによって削減していき、財源を確保する。 |                                              |

|                                                                                                                     |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <b>歳出総額 360億円</b>                                                                                                   |  |
| 具体的な内訳                                                                                                              |  |
| 民生費 130億 教育費 50億 総務費 45億 公債費 39億 衛生費 34億<br>土木費 33億 商工費 12億 その他 15億                                                 |  |
| 重点政策にかかる予算                                                                                                          |  |
| ・初年度、工房設立のための機器購入:1億円<br>・空き工場リフォーム代:5000万円<br>・未来づくり基金として毎年市民から集まった同額:およそ 3000万円<br>・毎年およそ3軒ずつの空き家改装 500万×3:1500万円 |  |
| 計:1億9500万円                                                                                                          |  |



## 歳出/歳入



## ■ビジョン(30年後の理想の地域)のキャッチコピー

# 新しい家族のカタチ

## ■ビジョン策定の背景・理由

流山市は現在、「都心から一番近い森のまち」であるという強みを生かし、  
「母（父）になるなら、流山市。」というキャッチコピーを掲げ、  
子育て世代をターゲットにしたマーケティング政策を行っている。

その結果、特に 30 代・40 代の人口が増えている。

しかし、子育てが「孤育て」になっており、  
頼る人がいないという親が少なからず存在することが、ヒアリングを通してわかった。

10 年後、流山市においてはまだ人口増加が想定されるが、30 年後、  
日本の人口は 1 億人を割り、流山市においても徐々に人口が減少し始めると想定される。  
(国立社会保障・人口問題研究所 人口推計より)

また、核家族化がさらに進行することで地域の人々のつながりは今まで以上に薄くなり、  
「孤育て」に悩む人が増えるだろうと想定した。

以上のことから、私たちは 30 年後の流山市において

①人口の減少      ②つながりの希薄さ      を問題として感じ、改善したいと考えた。

そこで、「**新しい家族のカタチ**」というキャッチコピーを掲げ、

血縁者だけではない、「**地域全体が家族**」という姿を目指す。

そこで、以前の村社会とは異なり、むしろ開かれた街づくりを行うことと、  
未来の進化した科学技術を駆使する点に、30 年後ならではの「新しさ」を見出す。

以下、重点政策の背景について。

### **政策①**

人口減少により、今後日本により多くの外国人がやってくることは予想される。  
現在の流山市のマーケティングのノウハウを生かし、  
外国人ファミリーを積極的に誘致することで、人口減少をくいとめるほか、  
外国人受け入れのモデルケースとしての地位を確立する。

### **政策②**

流山市には現在 300 以上もの公園が存在する。  
しかし、そのすべての公園が生かし切れていない。  
また、遊具が撤去されたり、ボール遊びが禁止であったりと、制限が多くなる公園もあり、  
市民が本当に利用しやすい公園になっていないことがある。  
そこで、公園のルールを話し合ったり、理想の公園を考えたりすることで、  
市民の利用しやすい公園にする。  
さらに、目的別にすることで、それぞれの公園に利用価値を生み出す。

### **政策③**

人口の減少と核家族化の進行により、  
今後、人々の人間関係はますます希薄化していくと予想される。  
①地域の人々が交流できる様々なイベントを活発に行い、人々が知り合う機会を増やす。  
②そこで知り合った関係が、その場限りにならないようにするために  
住民マップアプリを開発し、関係の継続を図るとともに、  
アプリのつながりで、知り合いの一步先の関係となることを目指す。

これら 3 つの政策によって、地域への愛着が強くなり、  
一生流山に住み続けたいと思ってもらえるようになるだろう。

## ■政策 1 世界が近くなる政策

◎ 日本に一生住みたいと思う外国人ファミリーを誘致する。

1. 上記の目標達成のために、外国人歓迎担当課を市役所に設置。

(外国人に流山を選んでもらうためのマーケティング活動や、  
流山に移住を希望する外国人の方との交渉および、次にあげるコミュニティセンターの運営など)

2. 外国人が日本語を学び、また日本人が生の外国語を学べる場として  
インターナショナルコミュニティセンターを敷設。

→ 市民と外国人の距離が近くなる様々なイベントの実施や、  
外国人への日本語レッスンを行うことにより、  
地元住民と外国人がかかわるためのカギとなる施設にする。

例) ① 外国人と市民が定期的に外国語でお話する会の開催 → さらなるグローバル化に対応

② 異文化間で、子育て方法を共有する会の開催 → 異文化理解を深める

3. 地域のお祭りなどに外国人が参加しやすくするための仕組み作り。(政策③参照)

例) 流山市で現在行われている大しめ縄行事などの伝統行事

◎ 外国人が住むことにより、人口が保たれて税収が減らない。

→ 流山市を外国人受け入れ自治体のモデルケースとし、新たな街のブランド化を目指す！

政策にかかる予算 … 5 億円

- ・ インターナショナルコミュニティセンター建設費
- ・ 外国人歓迎担当課設置費 ・ 日本語レッスンの費用 ・ その他サービス費

## ■政策 2 みんなの公園政策

1. 各町内会で市民が話し合って公園のルールを決め、市役所へ提出する。

→ 苦情などによって制限されすぎてしまう公園の削減に！

2. 理想の公園を考えるイベントの開催

… 子どもから高齢者までを対象とし、自分たちの過ごしたいと思う公園を考え、話し合い、作り上げる。

→ 話し合いという交流の場を生み出すと同時に、公園を市民のふれあいの場にしていく。

… 公園づくりの専門家も含めて話し合いを行う。

→ 理想と現実に沿った公園づくりの促進につながる。

3. 目的別公園の設置

… 300 以上ある公園を、すべて同じような公園にすると、

人気のある公園と人気のない公園で差が出てしまい、せっかくの公園を活かしきれない。

→ 目的別の公園にすることで、それぞれの公園に一定の利用者が来るようにする。

☆ 未来の技術発展によって、ハイテクな遊具の製造・設置も可能！

(例) 話し合いによる理想の公園

かくれんぼ・缶けり用公園

景観を楽しむ公園

ボール遊び用の公園

健康増進公園

発電する遊具のある公園

など

◎ みんなで考え、作り、使うことで、公園が今以上に活気のある公園になる。

→ 公園が、市民の親睦を深める場となる！

政策にかかる予算 … 5 億円

・遊具費 ・イベント開催費

## ■政策 3 地域のつながりをつくる政策

### 1. 地域交流イベントの開催

…人々の交流を目的としたイベントを毎週開催する。

(例) 外国人と地域住民のジェスチャー伝言ゲーム大会

異文化の伝統遊び大会

理想の公園づくり討論会

ロボットプログラミング体験会

バーチャルリアリティでの魔法バトル大会

老人いきいき健康増進バトル in 健康増進公園（仮） など

### 2. 住民マップの作成

… イベントによってつながった人々とのつながりを維持するアプリ。

- ・ 市民全員に登録してもらう。

- ・ 最初は、道路と流山市で開催されるイベントがマッピングされているだけである。

その後、イベントに参加してそこで知り合いになると、

その人のマップ上に居住区がマッピングされ、その人の SNS の投稿や、

イベントの参加情報がみられるようになる。

他にも、市内にある行ったことのあるお店なども、

位置情報を登録することでマップが少しずつ埋まっていく。

- ・ 知り合いになる、メッセージをやり取りし合う、イベントに参加する等の回数に応じてポイントがたまり、市内で使えるクーポン券や特産品を入手できる。

◎ イベントでつながり、アプリでそのつながりを維持・拡大し、またイベントでつながる。

この繰り返しで、知り合いの一步先の関係を目指す！

政策にかかる予算 … 2 億 6000 万円

・ アプリ製作費 ・ イベント開催費

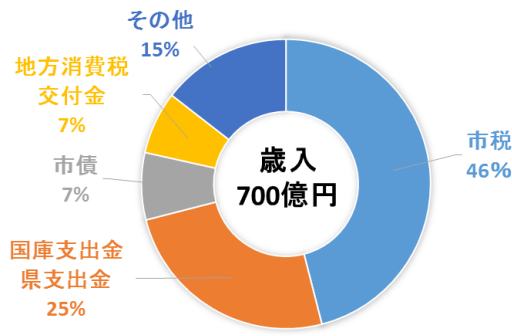


□ 予算案（10年後の流山市の予算）

歳入総額 ￥700 億

具体的な内訳

|          |        |
|----------|--------|
| 市税       | 322 億円 |
| 国庫・県支出金  | 175 億円 |
| 市債       | 49 億円  |
| 地方消費税交付金 | 49 億円  |
| その他      | 105 億円 |



市税は、現在行われている政策が今後も継続され、成功すると仮定し、市が発表している「市税収入と人口の推移」を参考に算出した。

国庫・県支出金と地方消費税交付金はここ数年の動向を参考に算出し、消費税は今後増加することを加味した。

また、10 年後には人口増加が緩やかになり、小学校の建設費などに使用されていた市債は金額が減少すると考えた。  
またこの市債は、一定額で落ち着いていた、平成 17 年から 24 年の発行額を参考にした。

財源の確保方法

政策① 社会福祉費から捻出

※なぜ社会福祉費なのか？

→10 年後には、医療の高度化、寿命の延長に加え、政策②によって高齢者が運動するようになれば、病気やけがの自己予防につながり、医療費が削減すると推測されるため。（茨城県大洋村の例より）

政策② 土木費から捻出（もともと公園費は土木費に含まれているため。）

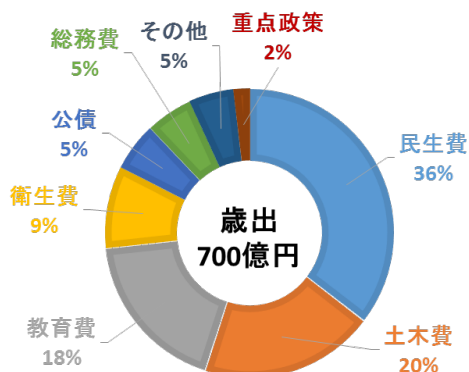
政策③ 衛生費・議会費・総務費・農林水産費から捻出

（将来的に削減可能な予算であると考えられるため。）

## 歳出総額 ￥700 億

### 具体的な内訳

|      |              |
|------|--------------|
| 重点政策 | 12 億 6000 万円 |
| 民生費  | 248 億円       |
| 土木費  | 137 億円       |
| 教育費  | 128 億円       |
| 衛生費  | 67 億円        |
| 公債   | 38 億円        |
| 総務費  | 37 億円        |
| その他  | 34 億 9000 万円 |



### 重点政策にかかる予算

#### 政策① 5 億円

- ・ インターナショナルコミュニティセンターの建設費
- ・ 外国人歓迎担当課の設置費
- ・ 日本語レッスンの費用およびその他のイベント開催費

#### 政策② 5 億円

- ・ 遊具設置費
- ・ イベント開催費

#### 政策③ 2 億 6000 万円

- ・ アプリ製作費
- ・ イベント開催費

## 第四位:チーム柴田（宮城県柴田郡） 工藤雄介・丹野莉紗子・布田安未

### ■ビジョン(30年後の理想の地域)のキャッチコピー MOVING

#### ■ビジョン策定の背景・理由

柴田町では現在、超高齢社会の影響があらわれ、ADL(日常生活動作)の低下が問題として挙げられます。高齢化により個々の運動能力が低下することによって、最悪の場合要介護状態になりかねません。

また、運動習慣者が住民の半数以下であることも挙げられる。運動不足によって引き起こされる問題—例としてメタボリック・シンドロームや肥満は、全年齢特に労働人口である成人の層に重大な健康被害をもたらすことが予測されます。

一方、柴田町はスポーツに関連するもの・ことが多くある。東北で唯一の体育大学である仙台大学が設置されているのみならず、まちの事業としてスポーツイベントを行っています。「スポーツ」という柴田の強みを生かして、人々が活力あふれる元気なまちを実現したい—以上の背景から、上記のビジョン「MOVING」(動く・移動する・感動 etc...)を策定しました。

## □重点政策

### ■政策①

#### 住民サポート連携チームの創設

- ・住民が適切な運動を行えるように指導する人(＝スポーツ推進員)を仙台大学とともに育成していく。
- ・健康面での不安を抱えた人がいつでも相談できるような体制を整える。
- ・スポーツ施設や公共施設、商店など日常生活を送る中で必要になる場所をつなぐための交通を整える。
- ・チームを運営する上で住民の方にも運営側としても参加してもらうことによって役割を持ち、生きがいを持ってもらう。

#### 政策にかかる予算

予算：2000 万円

- ・中古のワゴン車購入費(交通手段は大きなバスではなく、普通免許でも運転できるワゴン車)
- ・ボランティアへのお礼 ・その他予備費

### ■政策②

#### 健康ポイントシステム開発

- ・住民が健康行動をとるたびにポイントがたまる。  
EX)運動、健康診査の受診、イベント参加
- ・たまったポイントは公共施設やバス代、景品にかえることが出来る。
- ・ポイントの計測はアプリを使って行なう。
- ・登録制。

#### 政策にかかる予算

予算：5000 万円

- ・アプリ開発費
- ・ポイントの景品 ・その他管理費

### ■政策③

#### 研究所の積極的誘致

運動・健康・スポーツに関する研究を行う研究所の誘致を行う。研究所には奨励金や研究費を交付。住民や地域の学生と協力して研究を進め、成果のあった事業やシステムを優先的に柴田にて導入する。市民は先進的なスポーツ研究に参加できるというメリットがあり、健康に対する興味・関心を体験から促進させられると見込んでいる。最終的にはスポーツ研究のモデル都市を形成し、「スポーツ先進都市」としての柴田を目指すことを目標とする。

#### 政策にかかる予算

- ・研究所立地促進奨励金の交付・・・約 1 億円
- ・住民への研究協力に対する・・・約 5000 万円
- ・研究推奨奨励金・・・1 課題あたり約 500 万円

□予算案（10年後の柴田郡の予算）

|                                        |               |
|----------------------------------------|---------------|
| 歳入総額 ￥244 億 7261 万                     |               |
| 具体的な内訳                                 |               |
| 地方税・・・28%                              | 地方譲与税・・・1%    |
| 繰入金・・・5%                               | 地方債・・・11%     |
| 諸収入・・・7%                               | 地方交付税交付金・・・3% |
| 国・県支出金・・・19%                           | その他・・・1%      |
| 地方交付税・・・25%                            |               |
| 財源の確保方法                                |               |
| ・人口減少により歳入は減額。<br>・アプリ(政策②)の会員登録費による収入 |               |

|                                                    |            |
|----------------------------------------------------|------------|
| 歳出総額 ￥244 億 7261 万                                 |            |
| 具体的な内訳                                             |            |
| 民生費                                                | 衛生費 労働費    |
| 土木費                                                | 消防費 その他    |
| 教育費                                                | 農林水産業費 予備費 |
| 公債費                                                | 商工費        |
| 総務費                                                | 議会費        |
| 重点政策にかかる予算                                         |            |
| ・合併により歳出が縮小する(EX 役場・議会の統合)<br>・災害復旧費がなくなる→約 1 億の減額 |            |



NPO法人ドットジェイピー

---

■本部事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-10 麹町フラッツ2階  
TEL:0120-098-214 FAX:03-5213-4659 <http://www.dot-jp.or.jp/>